

WS-3

コミュニケーション・SDH 教育に「やさしい日本語」を活用する

日時：2026 年 6 月 5 日（土） 13：00 ～ 16：00

企画：イ・ティンザ・キン・武田裕子（順天堂大学）、新居みどり（NPO 法人国際活動市民中心）、石川ひろの（帝京大学）、岡崎史子（新潟大学）、岩田一成（聖心女子大学）

対象

医学・医療者教育に携わる教員・指導者、コミュニケーション教育・多職種間教育に関心のある教員・医療教育者。

概要

「やさしい日本語」とは、相手に合わせて分かりやすく伝える日本語を指す。本 WS では外国人模擬患者とのロールプレイを通して「やさしい日本語」を体験し、教育への導入と活用法について検討する。

本 WS のプログラムは、次の通りであった：

- ①「やさしい日本語」の講義②グループワーク（実際の医療現場で外国人患者への説明に困った事例・ことばが伝わらなかった経験の共有）③「やさしい日本語」の言い換え練習問題④外国人模擬患者とのロールプレイ体験⑤「やさしい日本語」の授業への導入を試みている新潟大学医学部、ならびに 4 年前から医療者研修として「やさしい日本語」WS を実践している旭川医科大学の事例紹介⑥全体討議：「やさしい日本語」の教育・研修導入の意義と課題。具体的な「やさしい日本語」導入の方策、活用法と課題についてアイデアの共有

最後に、演習の際に協力を得る外国人模擬患者から、当事者が学びに参加することの意義や今後の期待についてコメントいただいた。

報告概略

1. イントロダクション

WS に参加したきっかけや期待について、次の発言が聞かれた。

- ・ 地方の大学では学生の 60%が他県からの入学者で方言が通じにくいことに加え、高齢者が増えていることから「やさしい日本語」の活用を期待する。
- ・ 職場に看護助手などの外国人職員がおり、高齢患者も非常に多いことから、「やさしい日本語」について学びたい。
- ・ 「やさしい日本語」は高齢者とのコミュニケーションにも適用するので、WS を通して学びを深めたい。
- ・ 以前「やさしい日本語」WS に参加して、その経験を大学のゼミ学生に講義をしたところよい反応が得られたので、さらに導入を進めたい。
- ・ 言いたいことを分かってもらう話し方が外国人や高齢者にとってとても重要だと感じ、今回の学会で学んだ内容をこれからの教育に活かしたい。
- ・ すでに「やさしい日本語」教育を 90 分で 3 コマ実施していて、模擬患者育成に、留学生、大学院生、日本語学校で日本語を学んでいる外国人に声をかけ、積極的な参加が得られている

2. 講義

「やさしい日本語」が医療現場で求められる背景である在留外国人の増加や健康の社会的決定要因（SDH）、言語・文化の多様性について概説した。また、「やさしい日本語」は外国人だけでなく、高齢者や認知機能が低下した患者など、さまざまな人にとって分かりやすいコミュニケーションにつながることを説明した。続いて、「医療×「やさしい日本語」研究会」が提唱している“「やさしい日本語」の10のコツ”を紹介し、一文を短くし、オノマトペ、尊敬語や外来語を避けることなど、医療現場で実践できる具体的な工夫を解説した。後半のロールプレイを用いたグループワークに向けて、参加者が実践に取り組むための基礎知識の共有を図った。

3. グループワーク

参加者11名が3グループに分かれて、ロールプレイを行った。各グループごとに企画者1名がファシリテーターとなり、中国、ベトナム、ミャンマー出身の外国人模擬患者役が1名ずつ加わって、実際の医療場面を想定したロールプレイを行った。

まず、単語や文章を「やさしい日本語」に言い換える練習問題に取り組み、医療現場でよく用いられる表現を外国人患者に分かりやすい日本語へ言い換える演習を行った。続いて、実際の診療場面を想定した「ねん挫」のシナリオを用いてロールプレイを実施した。ロールプレイを体験しながら、「やさしい日本語」の使い方や相手に伝わりやすいコミュニケーションの方法について理解を深めた。最後に、ロールプレイを通して得られた気づきを共有した。

4. 事例紹介

①旭川医科大学看護職キャリア支援センター教育プログラム開発部門：4年前から、地元の町立日本語学校留学生の協力を得て実施している「やさしい日本語」WSについて報告がなされた。初年度は、順天堂大学武田教授による「やさしい日本語」のオンライン講義と対面研修を実施した。その後、シナリオを更に実践的にブラッシュアップし、地域の医療機関にも参加を呼びかけて「やさしい日本語」研修を開催している。多職種の医療専門職や学生など立場の異なる参加者が集まるからこそ、学びが深まる時間になっている。「認知機能が低下している方への伝え方にも応用できる」という参加者の声より、外国人対応を超えた気づきがあった。今後、プログラムを評価しつつ「やさしい日本語」WSを継続開催する予定である（*取り組みの詳細が旭川医科大学のウェブサイトで紹介されています）。



②新潟大学医学部医学科：多様な価値観や文化的背景を理解し、患者・利用者の個別性に配慮できるというアウトカムを目指し、「やさしい日本語」導入を試みた。授業後アンケートから、日本語を母語としない患者に医師として積極的に力になりたい、「やさしい日本語」の理解が深まった、「やさしい日本語」の実践は医療者にとって必要であり、「やさしい日本語」を用いての会話を実践したいなどのポジティブな結果が得られた。

5. ディスカッション・参加者のコメント

●「やさしい日本語」教育導入について

- ・ 分かりやすく伝える教育方法を考えることが必要だとわかった。
- ・ 臨床経験のない先生には、「やさしい日本語」

教育を学生に実施することが難しいではないかと推測する。

- ・ 今回の講義で示された“医療×「やさしい日本語」研究会”のウェブサイトにある既存動画教材を利用した授業が好評で、何度も実践してきた。具体的には、事例ビデオを止めながら学生に考える時間を与え、言い換えを試みてから感想と意見交換を行うようにアレンジしながら行っている。「やさしい日本語」の導入教育は難しいと考えず、行ってみてほしい
- ・ 今回の WS で実践的なことを学べたので、自大学でも取り組みを進めたい。
- ・ どのぐらいの大学が「やさしい日本語」教育を導入しているか知りたい。
- 「やさしい日本語」の実践について
- ・ 「やさしい日本語」は予想以上に難しかった。
- ・ 「やさしい日本語」に加え、外国人とのコミュニケーションはイラスト、アプリと併用することも効果的であると WS で体験できた。
- ・ 病院の接遇でどうしても丁寧な日本語を使ってしまう。しかし、それが外国人にはわかりにくいことが WS を通して分かった。現場において、使い分けることに気を付けたいと思う。
- ・ 海外で過ごす経験があるので、文書より単語が通じやすいことがよくわかる。
- ・ オノマトペが多い日本語は外国人に通じにくいことをイギリスで過ごした経験からもわかった。
- ・ 医療安全上、どこまで「やさしい日本語」を使えるか、検証できない。
- 異文化・SDH 教育との関連
- ・ 外国人とのコミュニケーションではその国の背景を知ることが大事であることを学ん

だ。

- ・ 言葉が伝わらず、医療費未払につながってしまうこともあることから、社会問題の解決にもコミュニケーションは大切である。

6. ファシリテータのコメント・模擬患者感想

●外国人模擬患者のリクルートについて

- ・ 日本語能力試験 (JLPT) の資格は必ずしも必要ではない。日常会話ができ、ロールプレイで意思疎通できる程度の日本語力があればよい。地域の国際交流協会や多文化共生センターなどの NPO 団体や、日本語学校、大学の留学生などと連携して協力者を募集することを勧める。

●外国人患者とのコミュニケーションのコツ

- ・ 「大丈夫」は外国人にとってとても伝わりやすい言葉である。しかし、話が難しく、長くなると、外国人患者は通じていなくてもついつい「はい、はい、はい」「大丈夫、大丈夫」と答えてしまいがち。
- ・ 話が通じたかどうかを外国人患者に確認するには、「分かりましたか？」と尋ねるのではなく、「今伝えたことをもう一度言ってみてください」という質問が有効 (talk back 技法)。
- ・ 結論を先に伝えてから具体的に説明するという流れのほうが外国人患者にとって理解しやすい。
- ・ 外来語のカタカナが誤解を招きやすい。
- 医療アクセスについて
- ・ 外国人は言葉が通じないと思い、病院に行かず我慢する人が結構いる。
- ・ はっきりと説明して、病名を伝えていただいた方が納得しやすい。医療通訳にとっても訳しやすくなる。
- ・ 病院では緊張しやすいし、「やさしい日本語」を使っていただくとありがたいうれしい。

スケジュール

6月5日（土）	
12:15-12:55	事前打ち合わせ
ミニ講座・グループワーク	
13:00-13:05	開会ご挨拶・ファシリテータと模擬患者自己紹介
13:05-13:15	参加者自己紹介
13:15-13:40	「やさしい日本語」講義
13:40-14:15	練習問題-単語と文章の変換・ロールプレイ「捻挫の説明」
事例紹介	
14:15-14:25	旭川医科大学看護部の取り組み
14:25-14:40	新潟大学医学部の取り組み
休憩	
14:50-15:10	全員ディスカッション：「やさしい日本語」教育導入の意義と課題
15:10-15:50	参加者コメント・感想：ワークショップの感想・今後取り組みたいこと
15:50-16:00	ファシリテーターコメント・模擬患者の感想